

## ☆☆図書室だより☆☆ ☆第11号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



2013年 6月(後期)～7月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名(ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
新島 裏	新島裏刊行会・編集委員会	あさを社	[茶 198.52 Ni ]
新島 裏・本多庸一	日本の代表的キリスト者-1 砂川萬里 著	東海大学出版会	[茶 198.3 Su ]
内村鑑三・新渡戸稻造	日本の代表的キリスト者-3 砂川萬里 著	東海大学出版会	[茶 198.3 Su ]
教会生活の処方箋	辻 宣道 著	日本基督教団出版局	[茶 198.35 Tsu ]
書名(購入書)	著者名など	出版社	分類シール
牧師とは何か	越川弘英・松本敏之 他 監修 平野克己 他 著	日本キリスト教団出版局	[茶 198.35 A ]

(下へつづく…)

## おすすめ本のご紹介…

堀川 樹 伝道師より

## 『詩編とともに祈る365日』 E.H. ピーターソン 著

比企敦子 船本弘毅 訳 日本キリスト教団出版局 2005年

詩編全150編を細かく節に分け、短い解説とその日の祈りが記されている本書。もちろん365日分記されている。詩編の言葉に耳を澄ませ、深い思索によって自らの祈りを重ね合わせる、日毎の祈り集である。

この本との出会いは2010年、神学校の学部4年生の時。夏期伝道実習で兵庫のある教会にお世話になったとき、指導牧師が紹介してくださいました。実習の期間、朝の短い時間ではあったが、この本の当該箇所を指導牧師と共に読み、共に祈り、その日の実習をスタートしたことを思い起こす。この経験が日ごとの糧となり過ごすことができた。

朝のバタバタした時間でも晩の静かな時間でも、少し立ち止まって神さまとの豊かな対話とも言われる詩編に耳を傾けてみませんか。きっと何かが変わります。

書名(ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
新約聖書 詩篇附	日本聖書協会	[橙 193.5 Ni 禁帶出]	
☆☆ 昭和28年発行の文語訳。整備中。			
新約聖書	柳生直行 訳 新教出版社	[橙 193.5 Ya 禁帶出]	
☆☆ 1985年発行の個人訳聖書。			
詳訳聖書－新約－	詳訳聖書刊行会編	いのちのことば社	[橙 193.5 Shc 禁帶出]
☆☆ 昭和48年発行。聖句に解説が折り込まれた文体です。			
新約聖書 共同訳	共同訳聖書実行委員会	日本聖書協会	[橙 193.5 Ni 禁帶出]
☆☆ 1978年発行の共同訳。			
聖書 新共同訳について	日本聖書協会	[橙 193.1 Ni 禁帶出]	
☆☆ 共同訳聖書実行委員会による共同訳業の解説の小冊子。			

**鑑賞して…** … (教会員の感想文より)

**『大塚久雄 一キリスト者・社会科学者一』**

**田村光三 編**

シャローム図書 1997年

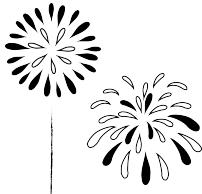
1970年代は、男子大学進学率が半数近くになるとともに大学で学ぶことの意義が根底から問い直された時代であった。その一方で、若者の教会離れの時代であったともいわれている。こうした大学と教会の危機には一定の共通性があったように思う。というのは、当時大学において大塚久雄氏らの著作が専門を超えて広く読まれた一方で、同氏らの教会での講演が青年層に大きな影響力があったというからである(『阿佐ヶ谷教会80年史』177頁など参照)。

尤も、大塚久雄氏らが広範な共鳴板を有したのはこの70年代が初めてではなかった。第二次大戦直後の状況については、速水優氏らの文章(※)がよく伝えるところであろう。

もしそうした時代がまた来るときすれば、本書は広範な読者を期待できるものであろう。本書は、大塚久雄没後1年記念として広く市民に開かれた講演会の記録であり、専門に終始するものではなく学問や信仰の様々な立場からの問い合わせの記録であるからである。(末山秀)

※ 例えば、速水優「キリスト者経済人としての私の信念」『強い円 強い経済』東洋経済新報社 2005年

書名(ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
<b>大塚久雄 一 キリスト者・社会科学者 一</b>	田村光三 編	シャローム 図書	[茶 198.99 Ta ]
<b>聖☆おにいさん</b>	中村光 著	講談社モニングKC	[黒 726.1 Na 1 ]



… (教会員の感想文より) … セイント

**『聖☆おにいさん』にひとこと！**

今大人気のコミックス『聖☆おにいさん』、日頃聖書の中のイエス様に接している私たちですが…？？（図書委員たちのひとこと集です）

- ☆ ☆ 話は面白い。しかしこれにマホメットを加え3人組にしたらイスラームは許すだろうか？ 信仰は知識だろうか？ 試されているように感じます。(MN)
- ☆ ☆ マンガとして読むにはとてもおもしろいですよ。ただ、あれがキリスト教の全てではありません。きっかけづくりにはいい作品です。 (I)
- ☆ ☆ とにかく笑えます。爆笑・苦笑…真面目な方の中には眉間に縦じわ？漫画でキリスト教に興味を持つ方もあるとすれば、一読の価値はありかと。 (Pi)
- ☆ ☆ 発想はおもしろいものの、若者2人の生活感のにじむ共同生活の会話をほほえましく思うだけで、何が言いたいのかよくわかりません。(MT)
- ☆ ☆ この作品のイエスとブッダは「聖典」が具現化されて、下宿生活をされているのだと思います。聖書が身近な存在であることをマンガで表現した傑作です。(M.I)
- ☆ ☆ マンガでかかれた手塚治虫作聖書物語見たことがあります。アニメエージ子供に絵から自然に学ぶこともよいのでは…(KN)
- ☆ ☆ おにいさん様方がこちらのコンビニにもおこしのときは、自分の心の目が開かれていますように！！(Ri)